



一步、前進

今、この日この時をどう生きるか

3学期になり、3年生はいよいよ受験期に入っている。思い描いてきたように日々を過ごしている人もいれば、ままならない状況にやきもきしている人もいるだろう。それぞれいろいろなことと向き合っているのだと思うが、結局は自分次第ということがひとまずは言えるだろう。

コロナ禍だった時、「当たり前前の方が実は当たり前ではなかったのだと分かった」というようなことがよく言われた。5月に新型コロナが5類となり、また当たり前前の方に慣れてきつつあったところだが、新しい年をとんでもない形で迎えることになってしまった。

「令和6年能登半島地震」—— よりによって元旦に起きてしまうとは——。日々刻々と被害状況が明らかになり、11日には「激甚災害」に指定された。地震発生から3週間以上になるのに、まだ安否が分からない方もいる。

そんな中、特に被害の大きい地域では、中学生の集団避難が始まっている。しかし、これは中学生だけの避難だから、家族とともに被災地に残るか、家族と離れて避難するか、そう簡単に決められるものではないだろう。どちらの道を選んでも、これでよかったと簡単には思えないだろうし、心配なことはどちらの場合もたくさんあるはずだ。そして、その中には多くの中学3年生も含まれている。本校の3年生と同じように、入試期間に入っているのだ。

言うまでもなく、高校入試というのは、多くの人にとって、自分の進路を自分の意志で決める最初の機会だ。「そこに照準を合わせて努力できるかどうかは自分次第」と普通は言える。もちろん、一人ひとり、自分次第と言い切れない状況もあるだろうが、大地震となると、本当にどうすることもできない。

私たちが生きている間に必ず起きると言われている「南海トラフ地震」のことを考えると、心の奥底が震える感覚を覚える。その時、自分は何をしているだろうか…。その後、どのように過ごしていくのだろうか…。そういうことを考えると、結局、「今、この日この時をどう生きるか」ということに行き着く。どうか、前向きに、前向きに、一步一步を刻んでいってほしい。

(校長:佐藤 浩二)